

# 実況中継「土曜講座」

第6号

2022年10月8日発行

## 市川学園9月3日の土曜講座 於 多目的ホール

### 飯吉透先生

AI時代を生き抜くために  
「いつ」「どこで」「何を」「なぜ」「どのように」学ぶべきか  
京都大学高等教育研究開発推進センター長・教授



#### 飯吉透先生のご紹介

- 1964年 東京都まれ
- 1989年 国際基督教大学教養学部教育学科卒業
- 1991年 修士(教育工学, 国際基督教大学大学院教育学研究科)
- 1999年 Ph.D. (教授システム学, フロリダ州立大学, 大学院教育学研究科)
- 2012年 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
- 2014年 京都大学高等教育研究開発推進センター長・教授 (現職)

#### 主な講義内容の紹介

「教育イノベーション」とは「文明」(＝技術的・物質的所産)と「文化」(＝精神的所産)の双方の変革が必要とされるというお話を皮切りに、豊富な事例に基づいて、これからの教育の展望についてお話いただきました。

近代の産業社会では、大量生産的・画一的な知識や技能の習得が求められ、高等教育のモデルは、大学に4年間通えば修了というものでした。一方でグローバル化・フラット化する世界において求められる 21世紀の教育は、興味・能力・必要に応じたオンデマンドな知識・技能の習得であり、高等教育のモデルは、生涯を通じて長期的なスパンで学び続けるというものへと変化しつつあります。そのような趨勢に対応した「オープンエデュケーション」や、学び手が何を学ぶべきかの指針を与えてくれるAIを活用した、新たな高等教育システムが、今日の日本の学校・大学において求められています。

ウェブで学ぶことができる「オープンエデュケーション」は、教育の「自己拡張と自己進化のための恒久的な仕組み」であり、仕事と学びが境界なく融合し、その両者の間を、誰もがいつでもどこでも自由に行き来しながら自己成長し続けられる社会の到来を可能にするものです。現在世界各国の大学・機関が作成した講義教材が競うように公開されており、21世紀の学びと教えは、加速度的に・有機的に成長していくこととなりました。これにより、一人ひとりの無限の可能性を切り拓くことが可能になったのです。

だからこそ、現在私たちが「いつ」「どこで」「何を」「なぜ」「どのように」学ぶべきか、それは私たち学び手の自由なのだと、力強く論じていらっしゃいました。飯吉先生の語る教育の姿は、市川学園の「第三教育」の精神と深く共鳴するものであり、そこに普遍的な学びの形があるように感じました。

#### 受講レポートから

・今回の講座では、人生の選択肢が様々になっていてそれを実現するための手段も多岐にわたっていて、それを自分のやりたい、重視する方法に合わせて選べるようにするためにAIを活用していくのがいいのではないかと思います。AI利用時代を生き抜くためにはまず、AIと人間のやるべきことを明確化し、AIに任せることは任せ、人間がやることは、AI活用によってできた新たな人材を用いて、今までよりも室の高いサービスを提供することが必要だと思いました。(中1)



・AIと教育をまぜると、学習は効率化するが、利点と欠点がある。そのため、人から学ぶことと、AIから学ぶことを、上手に選択してはたらきあえば、新たな可能性が生まれると思った。「AI時代」というのは、いつでも、どこでも、いろんなことを学ぶことができるので、今とは全然違い、大変だと思った。「成長し続けられる」のは、良い事だと思う。(中1)

・今まで「人間の仕事がAIに変わる可能性がある」「自分がそうならないためにはAIにはない創造力や共感性、記述力が必要な専門的な事をするべき」という話はネットで見聞きしたが、今回の講座でそのような人間を育てるためにはAIやネットを使い、専門的な人間を育てるためのチャンスを広げるということや、AIに一部を任せ、余った時間で深くまで人間にしかできないことをするのが大切だと思った。(中2)

・AIがある中で学びの仕方や目的を明確にする必要があるので、市川に入った理由なども考え直してみたい。(中2)

・1990年代、2000年代から、インターネットの普及などどんどん新しいもの、仕組みが開発されていって、2020年代、そしてこれからの時代(2030年代)はもう自分が知らないものがたくさん開発されていることを知り改めて凄いなと思いました。また、AIもどんどん普及していて、私が前までこれはAIにはできないだろうと思っていたことも今ではできるようになっていたり、人間に勝るようなことも増えてきて、普及されると便利になることも増えるが、その分競争が起き大変なことも起こると思ったので、AIばかりに頼りすぎずに、上手く利用しなければいけないと思いました。また、教育においても、私はオンライン授業しか知らなかったが、採点システムや学習サービスなどたくさんあることが分かりました。ロケットの先端にスポーツカーを乗せたり、人物を本物の様に映し出したりという発想は面白かったり、人々を感動させることができたりすることができて凄いなと思いました。

・私はもともとAIや拡張現実に興味があり、この講座に申し込みました。今までの教育やテクノロジーに対する価値観や文化の変化や、これから来るであろう新世代の話からの導入にとっても関心をそそられ、たのしく学ぶことができました。

パラダイムシフトにおいて、これから私たちは何を考えていけばいいのか、何をすればいいのか、あと私個人的に思ったことが、パラダイムシフトの影響を受けない、普遍的な考え方はないのかななどについて深く考えさせるような講座でした。AIが選ぶ選択は、過去のデータに基づいて計算された「もっとも成功率の高い」選択肢、つまり確率論になりがちなので、「考え続ける」というのは、人間にしかできないことなのかな、と思います。その分、人間がよりうまくAIを使いこなせる(協力していく)ことができれば、時代がまた一つ大きく変わるのだと思っています。(高1)

・自分自身最近Vtuberなどをよく見ていてAIの存在が身近になっているのかなという気がした。AIが人間にとって善か悪かは分からないけど上手に利用できれば可能性は無限大であるというのは確かだと思う。

